

栗原地域だより

第39号

平成30年9月3日発行

目次

- 「くりこま絆の森植樹プロジェクト」に参加しませんか p1
- （主）築館栗駒公園線 柳沢橋橋梁拡幅工事が完了しました p2
- 「道路クリーンキャンペーン」を実施しました p2
- 栗原市に新たなインターチェンジを整備します p3
- 平成30年度宮城県総合畜産共進会が開催されます！ p3
- 「苔」の試験栽培を始めました p5
- 「花山のふさすぐり収穫応援と加工体験バスツアー」を開催しました p5
- 今年度もマラウイ共和国の農業水利技術研修員4名が栗原市内を訪れました p6
- あなたのところは健康ですか?! ～9月10日から一週間は自殺予防週間です～ p7
- 『歩こう!あと15分』 ～9月は厚生労働省が定めた『健康増進普及月間』です～ p7
- RSウイルス感染症早めの予防 ～赤ちゃんの感染に注意～ p8
- 民泊やまざきがオープン ～自然体験と防災談義の宿～ p9
- 「ツール・ド・いちばさま2018」が開催されました p10
- 農林産物の放射性セシウム濃度を検査し安全性を確認しています p11



栗原市民まつり

「くりこま絆の森植樹プロジェクト」に参加しませんか
 北部土木事務所栗原地域事務所

平成20年6月に発生した「岩手・宮城内陸地震」に伴う土砂災害により被災した耕英東地区（駒の湯温泉）において10月17日（水）に植樹会を開催します。

この取り組みは、地震による犠牲者の鎮魂と失われた緑地の再生、堆積した土砂の流出防止を目的に平成25年から実施しており、「宮城県砂防ボランティア」や「栗駒自然を守る会」のほか、県及び栗原市職員などが参加し、カツラやミズナラ等の苗木を植樹しています。

取り組みに賛同される方は、個人・団体を問いませんので、ぜひ参加してみませんか。

なお、詳しい内容については、下記までお問い合わせください。



昨年の植樹会の様子



どんぐり拾いの様子

■お問い合わせ 河川砂防班 Tel：0228-22-2193

(主) 築館栗駒公園線 柳沢橋橋梁拡幅工事が完了しました

北部土木事務所栗原地域事務所

(主) 築館栗駒公園線の栗原市栗駒沼倉の柳沢橋付近は、幅員が狭く、カーブが連続し、大型車のすれ違い通行に支障を来していました。安全な通行を確保するため、平成29年10月から柳沢橋の橋梁拡幅工事に着手し、平成30年7月末に工事が完了しました。

工事期間中は、交通規制や作業等にご理解、ご協力をいただき、ありがとうございました。



工事着手前



工事完了後

■お問い合わせ 道路管理班 Tel : 0228-22-2179

「道路クリーンキャンペーン」を実施しました

北部土木事務所栗原地域事務所

国土交通省は、8月を「道路ふれあい月間」と定め、道路を利用する方々が道路の役割や重要性を認識し、常に美しく安全に利用いただくため、各種啓発活動を全国的に実施しています。

当事務所は、この取り組みの一環として、8月24日に宮城県建設業協会栗原支部の皆さまと一緒に約100名が参加し「道路クリーンキャンペーン」を実施しました。

このキャンペーンでは、栗原市内の県が管理する道路や歩道において、ペットボトルや空き缶拾いなどの清掃活動を行うとともに、国道398号沿いでドライバーにチラシを配布し、道路の正しい利用を呼びかける街頭活動も行いました。

皆さまも身近な社会資本である道路に関心を持っていただくとともに、美しく安全に利用いただくようよろしくお願いいたします。



清掃活動の様子



ドライバーへのチラシ配布

■お問い合わせ 行政班 Tel : 0228-22-2174

栗原市に新たなインターチェンジを整備します

北部土木事務所栗原地域事務所

県では、東日本大震災からの復興、富県宮城の実現に向けて、県北地域全体の経済産業を支え、広域連携を強化する地域高規格道路「みやぎ県北高速幹線道路」から東北縦貫自動車道へ直接乗り入れできる新たなインターチェンジの整備を計画し、その接続について国土交通大臣へ連結許可を申請したところ、平成30年8月10日に許可されました。

このインターチェンジの整備により、沿岸部と内陸部を結ぶ広域道路ネットワークが更に強化され、地域産業や観光交流の活性化、災害時の防災機能の拡充などが図られるとともに、被災沿岸地域の復興を一層促進するものと期待されます。

今後、事業説明会を開催したうえで、測量設計を進め、具体的な計画をまとめていく予定です。事業の進捗状況等につきましては、当紙や事務所ウェブサイトで情報を発信してまいります。



位置図



航空写真

■お問い合わせ 道路建設班 Tel : 0228-22-2189

平成30年度宮城県総合畜産共進会が開催されます！

北部地方振興事務所栗原地域事務所

平成30年度宮城県総合畜産共進会が、宮城県食肉流通公社(登米市)及びみやぎ総合家畜市場(美里町)で開催されます。日程は、肉豚の部は9月7日、肉用牛の部は9月14日及び15日、乳用牛の部は9月25日です。

本年度の県共進会は、昨年度に開催された第11回全国和牛能力共進会宮城大会から2022年の第12回鹿児島大会での躍進に向けた第一歩の共進会となります。栗原地域の畜産農家からも、多くの肉用牛及び乳用牛が出品されますので、ぜひご来場ください。

また、9月15日(土)には、牛肉試食会や地場産品、牛肉、鶏卵等の販売会も開かれますので、お楽しみください。

詳しい内容は、一般社団法人宮城県畜産協会ホームページ (<http://miyagi.lin.gr.jp/>) をご覧ください。

■お問い合わせ 畜産振興部畜産振興班 Tel : 0228-22-2487

農林水産祭参加 平成30年度 宮城県総合畜産共進会

肉豚の部 出品予定頭数 75 セット (150頭)

褒賞授与式 **9月7日 金 AM 11:30~**

会場：登米市 株式会社 宮城県食肉流通公社

肉用牛の部 出品予定頭数 106 頭

個体審査 **9月14日 金 AM 11:30~**

比較審査 **9月15日 土 AM 9:30~**

会場：美里町 みやぎ総合家畜市場

乳用牛の部 出品予定頭数 98 頭

比較審査 **9月25日 火 AM 9:30~**

会場：美里町 みやぎ総合家畜市場

試食販売会

牛肉試食会・地場産品
牛肉・鶏卵販売 等

平成30年 **9月15日 土**

AM 9:30~

※試食は、10時30分から開始となりますが、数量に限りがありますので、なくなり次第終了となります。
※販売品は午前中に売り切れとなる場合があります。



主催 一般社団法人 宮城県畜産協会

共 催 全農グループ(全国農業協同組合連合会宮城県本部、JA全農北日本くみあい飼料株式会社)、宮城県畜産協同組合、宮城県畜産共済組合、みやぎの酪農農業協同組合、宮城県酪農農業協同組合
協 賛 仙台牛豚推進協議会、宮城野豚豚推進協議会、公益社団法人 全国和牛登録協会宮城県支部、宮城県和牛改良組合協議会、宮城県牛乳普及協会、宮城県酪農協会、宮城県牛乳協会、公益社団法人 みやぎ農業振興公社、公益社団法人 宮城県獣医師会、一般社団法人 宮城県配合飼料価格安定基金協会、株式会社 宮城県食肉流通公社、仙台中央食肉卸売市場 株式会社 石巻産鶏サイロ 株式会社、宮城県畜産人工授精師協会、宮城県ホルスタイン協会

後 援 宮城県、美里町、登米市、畜産関係団体、報道機関

「苔」の試験栽培を始めました

北部地方振興事務所栗原地域事務所

「苔」を活用した地場産品の産地化を目指すため、昨年度の栽培講習会で専門家から指導を受けた栽培方法により、今年度から試験栽培を始めました。

栽培するためには、種となる「苔」が必要になるため、地域の森林等において現地調査を実施し、栽培が可能な種類の生育箇所を確認することができました。

早速、土地所有者の承諾を得て、栽培講習会に参加した個人の方や、栗駒高原森林組合、栗原市等関係機関の協力も得ながら、「苔」の採取や乾燥等の作業を共同で行っています。

「苔」は栽培して出荷するまでに2年程度の期間を要するため、栽培環境ごとの生長差を継続的に調査し、栗原地域に適した栽培方法を確立するとともに、生産者の確保による産地化に向けて取り組みを推進していきます。



苔の採取



種蒔き作業

■お問い合わせ 林業振興部森林整備班 Tel：0228-22-2391

「花山のふさすぐり収穫応援と加工体験バスツアー」を開催しました

北部地方振興事務所栗原地域事務所

栗原市花山では、30年以上前から特産の小果樹「ふさすぐり」が栽培されていますが、生産者の高齢化や岩手・宮城内陸地震の影響等により、収穫量が減少しています。生産においては収穫時期の人手不足が最も大きな課題であり、これを都市住民等の応援で解決できないか検討するため、6月30日にバスツアーを開催しました。

主に仙台方面から参加した20名の方々により、暑い中、真っ赤に熟した果実を約27kgも収穫できました。調製・計量・パック詰めまでをお手伝いしていただき、生産者に喜ばれました。

高齢化・人手不足が進んだ中山間地農業の維持・活性化のためには、都市住民との交流や移住・定住者など、外部の手を借りることも重要です。来年度以降も、このような取組を検討していきます。



生産者から収穫の指導を受ける参加者



調製・計量・パック詰め作業の様子

■お問い合わせ 農業振興部地域農業班 Tel：0228-22-9404

今年度もマラウイ共和国の農業水利技術研修員4名が栗原市内を訪れました

北部地方振興事務所栗原地域事務所

県は、JICA（独立行政法人国際協力機構）とマラウイ共和国政府との合意に基づき、マラウイ共和国の農業水利技術者の育成を目的とした国際技術協力事業を実施しており、その一環として研修員の受入を行っています。

マラウイ共和国は、アフリカ大陸南東部に位置し、国土は九州と北海道を合わせた程の面積です。農業が主な産業で、トウモロコシやコメの他、タバコや綿花の生産が盛んです。気候は、大きく乾季と雨季に分かれ、年間の降雨量の約9割が雨季に集中しています。そのため、乾季にも農地へ用水を供給する技術が必要であり、県では、国際技術協力事業の一環として、乾季における水の確保と食糧増産のための体制整備と技術向上を目的に支援を行ってきました。

県は、マラウイ共和国からの研修員を平成23年度から受け入れており、今年度で8年目を迎えます。今回も4名の研修員が7月17日から8月3日の日程で来日し、7月26日と27日の2日間にわたり農業水利技術の習得のため栗原市内を訪れました。

26日は当事務所への表敬訪問の後、農家視察、堆肥製造現場の視察等を行い、翌27日には宿の沢ダム周辺で測量機器を用いた測量実習を行いました。

今回の研修で学んだ技術と知識がマラウイ共和国の農業の発展に繋がることを期待します。



農家視察



堆肥製造現場の視察



測量実習の様子

■お問い合わせ 農業農村整備部管理調整班 Tel : 0228-22-2458

あなたのこころは健康ですか?! ～9月10日から一週間は自殺予防週間です～

栗原保健所

自死の多くは「追い込まれた末の死」であり、防ぐことができる社会的問題です。本県の自殺者数は年間400人を超え、働き盛り世代や高齢者に多く、職場での悩みや生活苦、過労、身体疾患などが要因となっています。

また、10代から30代までの死因の第1位が自死であり、若い世代への支援も必要です。自死で亡くなられた方の多くは、うつ病などの精神疾患にかかっています。うつ病は、「気分が落ち込み、何もする気がおきない」など、うつ状態が長期間続いて日常生活に支障がでる病気で、約15人に1人がかかると言われています。心配や過労、過剰なストレスが続くことなどにより、こころの健康状態が悪化し、かかりやすくなりますから、早い気づきと治療が大切です。

「K6テスト」で、あなたのこころの健康度をチェックしてみましょう。

<K6テスト>

この1カ月の間にどれくらいの頻度で次のことがありましたか？

(選択基準：全くない=0点、少しだけ=1点、ときどき=2点、たいてい=3点、いつも=4点)

- 1.自分が神経過敏になっていると感じましたか？
- 2.自分がそわそわ、落ち着かなくなっていると感じましたか？
- 3.気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じましたか？
- 4.何をするのも面倒だと感じましたか？
- 5.絶望的だと感じましたか？
- 6.自分は価値のない人間だと感じましたか？

合計13点以上だと「要注意」です。早めに医療機関（精神科）を受診しましょう。受診に抵抗があるときは、栗原市の保健推進室や保健所の保健師に相談しましょう。

■お問い合わせ 地域保健福祉部母子・障害班 Tel：0228-22-2118

『歩こう！あと15分』 ～9月は厚生労働省が定めた『健康増進普及月間』です～

栗原保健所

県は、『第2次みやぎ21健康プラン』を策定し、「歩こう！あと15分」「減塩！あと3g」「めざせ！受動喫煙ゼロ」を重点目標に掲げ、健康づくりを推進しています。その中で最重点に掲げているのは「歩こう！あと15分」です。平成28年県民・健康栄養調査の結果、特に、働く世代に運動習慣のある人の割合が少ないことが分かっています。

皆さまは、自分が1日に何歩くらい歩いているか把握していますか？

デスクワークや車での移動が多い方は、意識して歩数を増やす工夫をしたり、運動を取り入れないと1日3,000歩程度という日も少なくないと思います。まずは、歩数計や歩数アプリなどを使って自分の歩数を確認してみることをお勧めします。その上で「歩こう！あと15分」を目指して、今より少しでも多く歩くための行動を生活に取り入れましょう。

(参考) 15分の歩行は1,500歩の歩数に相当します。

第2次みやぎ21健康プランでは、

1日の歩数の目標を20～64歳の男性は9,000歩、

女性は8,500歩としています。



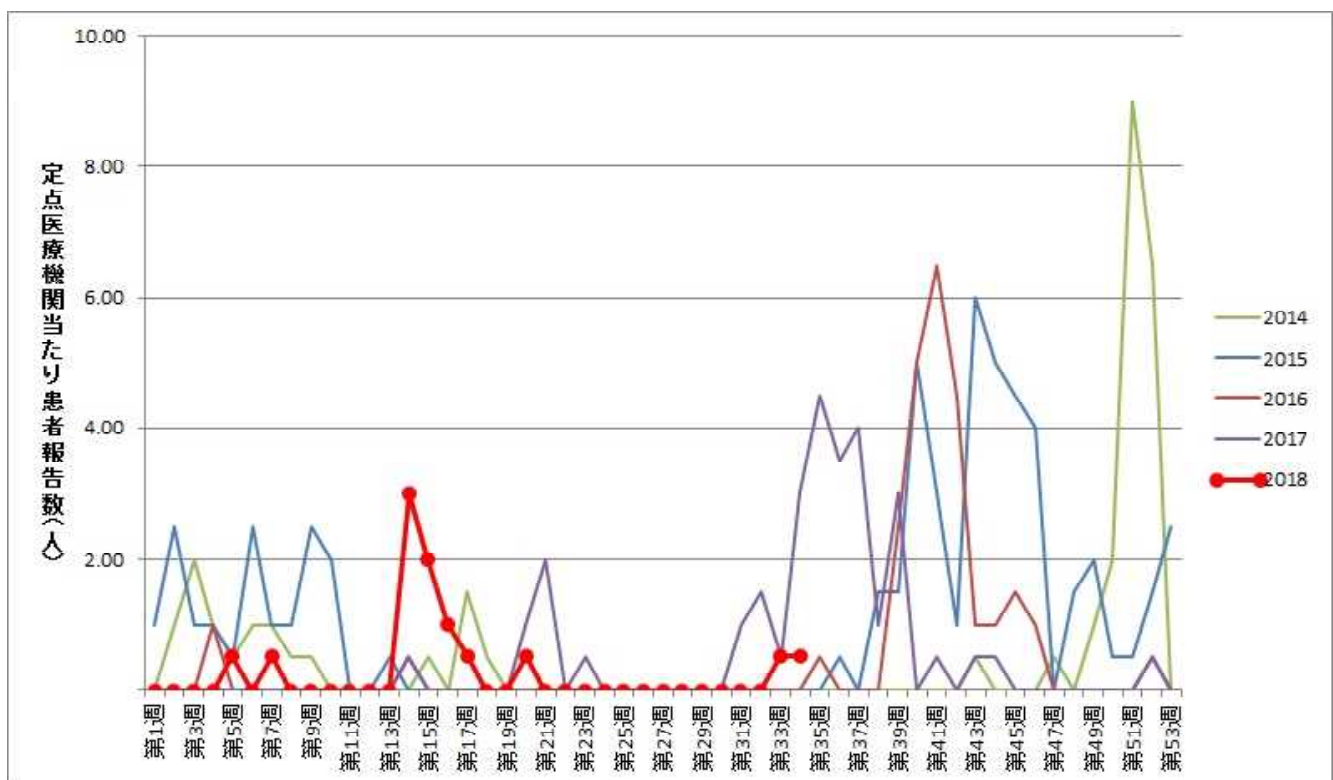
■お問い合わせ 地域保健福祉部成人・高齢班 Tel：0228-22-2116

RSウイルス感染症は通常、冬に流行しますが、近年では夏季から患者が増加する年もあり、早めの備えが大切です。

感染すると、多くの場合かぜによく似た軽い症状で済みますが、生後数週間から数か月で初めて感染すると症状が重くなりやすく、場合によっては細気管支炎や肺炎といった重い症状を引き起こします。大人でも感染し、症状が軽いためにRSウイルス感染症と気が付かず、乳児にうつしてしまうこともあり注意が必要です。

感染予防のポイントは、次のとおりです。流行期はもちろん普段から意識して実践しましょう。

- ・ 外出後や食事の前など、流水と石けんによる十分な手洗いを徹底しましょう。
- ・ 咳やくしゃみが出る場合は、マスクを着用する等の咳エチケットを心がけましょう。
- ・ 日常的に手に触れるドアノブや手すり、おもちゃなどはアルコール消毒をこまめに行いましょう。
- ・ かぜの症状があるときは、乳児になるべく近づかないようにしましょう。



RSウイルス感染症患者報告数の推移 (栗原管内)

■お問い合わせ 地域保健福祉部疾病対策班 Tel : 0228-22-2117

民泊やまざきがオープン ～自然体験と防災談義の宿～

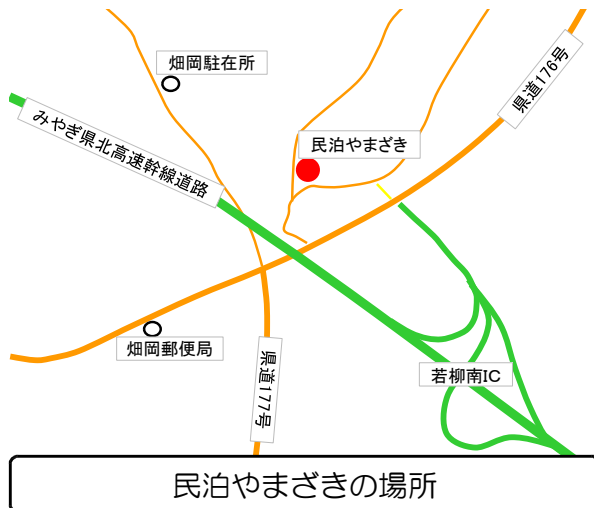
北部地方振興事務所栗原地域事務所

住宅宿泊事業法（民泊新法）が平成30年6月15日に施行されました。栗原市内で唯一登録している「民泊やまざき」の魅力を紹介します。

「民泊やまざき」は、平成24年に気仙沼から若柳に移住した小野寺さん夫妻が営む民泊施設です。敷地には母屋、蔵、畑などがあり、蔵を改装して客室に利用しています。この客室は、むき出しの太い梁に弓と矢の飾り付けが施されていて、気仙大工の明治29年頃の作品と推定され、独特な雰囲気があります。

御夫妻は、お客さんと交流する機会・時間を大事にしたいと考えており、さまざまな交流メニューも用意しています。ご主人の徳茂さんは、小学校校長時代に東日本大震災に遭遇した経験を活かして、自分の命は自分で守るという防災談義等をしたいと話しています。また、女将の恵子さんはラベンダースティックづくりやピザの調理体験などを担当しています。その他に色々な作物の収穫体験もメニューに揃っています。ぜひ御夫妻とゆったりとした時間をお楽しみください。

住所 栗原市若柳下畑岡内谷川2
電話 080-5554-7030
e-mail harukuru2411@gmail.com



民泊やまざきの場所



移り住んだ先の屋号がやまざき



蔵を改装した客室



太い梁に独特な飾り

■お問い合わせ 地方振興部商工・振興班 Tel : 0228-22-2195

「ツール・ド・いちはさま2018」が開催されました

北部地方振興事務所栗原地域事務所

8月19日、清々しい青空の下、「ツール・ド・いちはさま2018」が開催されました。このイベントは、自転車好きの有志が集まって実行委員会を結成し、栗原市に「サイクルツーリズム」を推進する契機とするために、初めて開催されたものです。

この日集まった155名は、一迫総合支所をスタートして、それぞれに栗原の風景を楽しみながら、ロングコース88km、ショートコース65kmを走行しました。途中のエイドステーションでは、アイスやトマト、ジェラート、岩魚押寿司など地元の特産物を味わいながら、栗原の暑い夏のひとときを過ごしていました。



出発前の開会式



スタートの様子



エイドステーションで休憩



記念缶バッジ製作体験

■お問い合わせ 地方振興部商工・振興班 Tel: 0228-22-2195

農林産物の放射性セシウム濃度を検査し安全性を確認しています

北部地方振興事務所栗原地域事務所

6月18日から8月17日までの間に、農林産物31点の放射能検査を行い、すべてが食品の基準値（100ベクレル/kg）以下でした。

このように、市場に流通している農林産物は計画的に検査して安全性を確認しておりますので、安心してお召し上がりください。

なお、栗原市産のこごみ、こしあぶら、たらのめ(野生)、野生きのこの4品目の山菜類は、出荷制限指示を受けており、市場や直売所等には出荷できません。

(原木しいたけ(露地)、たけのこについても、出荷制限が続いています。ただし、これらは一部地域(登録生産者)のみ出荷できる状況です。詳しくは林業振興部にお問い合わせください。)

☆放射能検査の測定値が基準値以下であったもの(6/18~8/17)

農産物			林産物			
品名	施設	露地	品名	施設	露地	野生
かぼちゃ	—	◎	わらび	—	◎	—
キャベツ(2点)	—	◎	たけのこ(2点)	—	—	◎
きゅうり(3点)	—	◎				
じゃがいも	—	◎				
しゅんぎく	—	◎				
ズッキーニ(8点)	◎	◎				
だいこん(2点)	—	◎				
たまねぎ(2点)	—	◎				
なす(4点)	—	◎				
にんじん	—	◎				
はくさい(2点)	—	◎				
ブロッコリー	—	◎				

◎：基準値以下 —：検査未実施

※放射性セシウム濃度基準値	
食品群	基準値(1kgあたり)
飲料水	10ベクレル
乳児用食品	50ベクレル
牛乳	50ベクレル
一般食品	100ベクレル

詳しくは厚生労働省 HP を
ご覧ください。

(http://www.mhlw.go.jp/shinsai_jouhou/shokuhin.html)

- お問い合わせ 農業振興部 先進技術班 Tel：0228-22-9437（農産物）
林業振興部 林業振興班 Tel：0228-22-2381（林産物）

発行：宮城県北部地方振興事務所栗原地域事務所（地方振興部）
〒987-2251 宮城県栗原市築館藤木5-1
Tel：0228-22-2195(直通) Fax：0228-22-6284
e-mail：nk-khsinbk@pref.miyagi.lg.jp
ホームページ <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/9.html>